保育のヒント〜「科学する心」を育てる〜

アイデアの共有（創造性の源）／学校法人同朋学園 同朋認定こども園 同朋幼稚園

子どもたちは遊びの中で、考えたり工夫したりすることを楽しんでいます。そして、その工夫は確かな学びの体験になるだけでなく、“アイデア”として共有されていきます。

砂や泥の遊びでも多くの園で、様々なご馳走作りや工夫が見られると思います。今回は4歳児の姿をご紹介します。

泥遊びのアイデア／4歳児

アイデア（工夫）：いろいろな色（粘土質の泥、黒土、砂の違い）

Kちゃんは「ゴマ団子でーす」と言い、泥団子の回りに黒土をかけた団子を持って来る。それを見たNちゃんは、泥団子にサラサラの砂をかけ「黄粉団子でーす」と言う。
保育者が「2色団子食べたいな」と声かけすると、KちゃんはNちゃんに「どこで取ってきたん？」と砂の場所を聞く。「あっちだよ！」とNちゃんが言うと、2人は走って、それぞれの場所から異なる土を持って来て、混ぜ合わせて遊ぶ。
しばらくして色の違いに興味をもったNちゃんは、用意してあった透明なプリンカップに色の違う土や砂を順に入れて「見て！プリンできた。上がプリンで、下はカラメルソース！」と言い見せる。その後、黒ゴマ・黄粉・餡子に見立て、色の違う泥団子や枝にさした3色団子を作る。
遊びながら泥・土・砂の違いに気付き、遊びが発展していった。

アイデア（工夫）：いろいろな硬さ（水分量の違い、硬さの違い）

1. 泥水…ジュース作り
2. トロトロな泥水…シチュー
3. ペタペタした泥の塊…ホットケーキ
4. 型抜きができる硬さ…ケーキ
5. 固まってひっくり返せる硬さ…お好み焼き
6. **転がしても壊れない硬さ…泥団子レースの団子**

その後、泥団子レースが展開した

体験したこと

- うまく転がる団子にするために、いろいろな大きさや硬さの団子を作り試している。
- 友達と意見を出し合いながら遊びを進めることで、斜面を長く転がる泥団子がどのような物か気付く。
- 試行錯誤により、形や硬さ、大きさで、斜面との摩擦の関係性の違いが明らかとなり、長く転がる団子の作り方を発見した。

考察

同じ素材なのに、割れたり、止まったり、コースを外れたりすることを不思議に思い、探究心が生まれたのだと思う。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。
「 (C)公益財団法人 ソニー教育財団
ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/ 」